クラウド移行リハーサル・切替実行表

作業順序とデータの正本、切替・復帰の判断を結ぶ実務様式

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

稼働中のシステムの移行順序と検証の証拠を定め、切替の開始・保留・復帰の決定を記録します。

クラウド移行を承認する技術責任者・作業担当者・業務検証担当者

目次

01 一緒に移す業務と依存関係を定めます 3

02 リハーサルの所要時間と支障の出た条件を残します 4

03 次の段階へ進むための証拠を定めます 5

04 新規書き込みの前後で復帰方法を分けます 6

05 業務再開と旧環境の終了を別々に承認します 7

06 移行の依頼範囲を実行表で定めます 8

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

一緒に移す業務と依存関係を定めます

移行単位には、サーバーとデータベースのほかに、ファイル、定期ジョブ、外部連携も含まれます。読み書きする主体と業務停止の影響を確認したうえで、一緒に切り替えるまとまりを定めます。

移行単位の定義表

対象・接続	切替前の正本	切替後の正本	確認担当
記入例：文書・版	旧環境の版管理DB	新環境の版管理DB	アプリ担当
記入例：承認状態	旧環境の承認履歴	新環境の承認履歴	業務担当
記入例：添付・権限	旧環境のストレージ・権限表	新環境のストレージ・権限表	データ担当
記入例：通知Webhook	旧環境の送信キュー	新環境の送信キュー	連携担当

文書の版と承認状態が一致しないと、利用者が確認した内容と実際に承認された内容がずれます。文書API、承認履歴、添付のアクセス権限、承認通知のWebhookを同じ移行単位の中で照合します。切替中に承認要求と通知の送信が二つの環境で重複して実行されないよう、書き込み主体とジョブを定めます。

> **記入例：B2Bの文書承認・共同作業**
>
> 架空のチーム共同作業サービスでは、作成者が文書を提出し、指定承認者が版を確認して承認します。表の時刻・件数・結果は記入例であり、本番の実施状態は未実施です。実際の計画には、版・承認履歴・権限範囲と作業枠、確認の証拠を記入します。

リハーサルの所要時間と支障の出た条件を残します

リハーサル計画には、試験データと遮断する外部動作、開始状態と期待結果が必要です。実測した結果と、本番でまだ確認できていない条件を区別します。

架空のリハーサル記録	開始→終了	期待結果	記録例
文書・承認の同期	21:02→21:08	40件・承認履歴が一致	最終承認イベント AP-040
添付・権限の照合	21:08→21:10	12件・許可/拒否が一致	ハッシュ・ 役割別アクセスを確認
文書承認フロー	21:10→21:12	版v3・指定者が承認	作成者の承認試行を拒否
通知Webhookの準備	21:12→21:13	送信権限は一環境のみ	旧側は停止・新側は待機

リハーサル結果・本番との差異の記録

作業・検証	実行時間・証拠	本番と異なる条件	補完担当・期限
同期・照合			
権限・外部連携			
トラフィック・業務検証			
復帰・後続の照合			

架空記録の合計11分は、本番移行で約束する所要時間ではありません。実際のリハーサルでは、文書の版数、承認変更量、添付容量、権限とWebhookの条件を記入します。外部通知を試験用受信先へ送った場合、本番受信先への配信確認は別の未解決項目です。状態は未実施・合格・不合格・実行不可に分けます。

次の段階へ進むための証拠を定めます

切替は、実際の利用者リクエストと書き込みの正本を新環境へ移す作業です。各段階の結果を確認してから次の作業を承認し、時間が経過したことだけを理由に切り替えることはしません。

段階	実行すること	次の段階への条件	役割
準備確認	版・役割・連絡先の照合	未解決の阻害要因なし	統括
書き込み制御	提出・承認・Webhookを制御	旧環境に新規書き込みなし	アプリ・運用
最終同期	文書・承認・権限の照合	欠落・不一致の解消	データ
トラフィック切替	承認済みの経路変更	新環境の応答を確認	インフラ
業務確認	版・承認・添付の検証	許可・拒否の結果が一致	QA・業務担当
書き込み開始	新環境の正本のみ有効化	旧環境の書き込み遮断を維持	統括・運用

> **記入例：承認履歴の欠落による保留**
>
> 文書DOC-018のv3は旧環境では承認済みですが、新環境では承認待ちと表示されます。旧環境の承認イベントAP-041が新環境にはなく、AP-040までしか反映されていません。文書40件と添付12件が一致していても、次の作業の承認は保留します。承認履歴と役割ごとの権限を再照合してから判断します。

文書の件数だけでなく、現在の版、承認対象の版、承認状態とイベントIDを照合します。添付のハッシュが同じでも、権限が広がっていれば合格ではありません。指定承認者は許可し、作成者の自己承認は拒否する例のポリシーを、同じ文書で試験します。実際のアクセスポリシーは、対象組織の承認条件に基づいて定めます。

新規書き込みの前後で復帰方法を分けます

新環境で業務データが生じると、リクエストだけを旧環境へ戻しても、その変更は旧環境に戻りません。新規書き込みと外部処理の有無に合わせて、復帰または前進修正を選びます。

現在の状況	先に確認すること	判断の候補	承認する役割
新規書き込みの開始前	旧環境・データの状態	旧経路への復帰を検討	技術統括
新しい版・承認が発生	承認対象・逆方向反映の可否	照合後に復帰を検討	業務・データ
通知Webhook配信済み	承認イベントID・重複のリスク	後続の通知・前進修正を検討	業務・連携
復帰の時間が不足	残作業・業務への影響	非常時計画へ転換	技術・業務の統括

記入例：復帰判断の期限

作業枠の終了を21:30、復帰手順を8分、復帰後の業務確認を5分と仮定すると、最後の判断時刻は21:17です。21:17に必須検証が終わっていなければ、当初計画の継続を承認しません。13分を確保できるかとデータの状態を確認し、事前に合意した復帰・非常時手順を選びます。

進行・保留・復帰の判断記録

判断時刻・段階	観測値・新規書き込み	決定・実行担当	承認・後続の確認
記入例：21:12	AP-041欠落・ 新規書き込みなし	保留・データ担当	承認履歴の再照合
記入例：21:17	必須の権限検証が未完了	継続を中止・統括	復帰の準備状態を確認

業務再開と旧環境の終了を別々に承認します

新環境への接続が成功した後も、文書の版・承認状態・添付の権限と通知Webhookの結果が一致しているかを確認します。旧環境の終了は、保管・復帰・未解決の条件を検討したうえでの別の決定です。

業務再開・終了の確認表

確認対象	必要な証拠	結果・未解決事項	確認担当
主要業務・権限	業務ごとの再現記録		
変更データ	元データ・新環境の照合結果		
通知・外部連携	イベントID・処理状態		
モニタリング・連絡	新環境の観測・連絡試験		
旧環境の終了	保管・契約・返却の一覧		

> **記入例：条件を分けて残した終了記録**
>
> 架空の記録では、文書v3と承認履歴、添付の権限、通知ジョブの単独実行を確認しました。試験用受信先で同じ承認イベントを一度だけ反映した結果を残します。本番受信先への配信は未確認とし、その影響と暫定対応を検討した承認を経てから業務を再開するよう記録します。

旧環境の書き込み遮断を維持している間の、照会・保管・費用の担当を定めます。サービス再開とアカウント削除を同じチェックボックスで処理しません。廃棄するリソース、残すバックアップとログ、終了する契約、回収する権限は、運用引き継ぎの一覧と結び付けます。

移行の依頼範囲を実行表で定めます

移行の担当者には、現在の構成だけでなく、変更する業務と完了条件を伝えます。設計・データ移動・検証・安定化を誰が担うかを決めれば、同じ範囲で提案を比較できます。

記入例：依頼範囲	社内組織	IXCへの検討依頼	残す結果
文書承認サービスの移行	役割・業務日程	依存関係・移行順序	移行単位・作業表
版・承認履歴の移動	照合範囲・アクセス承認	同期・リハーサル	状態照合・未解決事項
添付・作業権限の検証	許可・拒否のポリシー	検証範囲・再試験	シナリオ・判定
通知・運用の安定化	配信条件・保管の決定	Webhookの照合・後続対応	運用引き継ぎ記録

IXCのクラウド移行は、依存関係の評価と移行順序、リハーサル・切替・安定化を扱います。実行表の未確定項目をもとに、技術検討と実際の実施範囲を協議します。移行後の資産・権限・復旧の担当は、クラウド運用引き継ぎ点検表で引き続き管理します。

> **公式ドキュメントの適用**
>
> AWSの切替ガイドは、作業順序と担当、検証・復帰計画を事前に定めるよう説明しています。新しいデータが発生した後の復帰は、データの処理まで考慮する必要があります。この資料の文書承認サービスの記入例は、特定ベンダーのツールやテンプレートを前提としていません。

発行・ご利用について

対象業務と現在の環境、データの変更経路をもとに、リハーサル・切替・復帰の判断と安定化の範囲を一緒に検討します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/cloud-migration

www.ixc.co.kr/ja/assets/cloud-migration-runbook

参考資料

AWS Prescriptive Guidance: Pre-cutover stage

https://docs.aws.amazon.com/prescriptive-guidance/latest/best-practices-migration-cutover/pre-cutover-stage.html

AWS Prescriptive Guidance: Cutover stage

https://docs.aws.amazon.com/prescriptive-guidance/latest/best-practices-migration-cutover/cutover-stage.html

IXC クラウド移行

https://www.ixc.co.kr/ja/services/cloud-migration

IXC 戻せる配備の作り方 — コード・設定・DB・トラフィックを一緒に設計する

https://www.ixc.co.kr/ja/insights/rollback-ready-deployment